

理想の看取りと死に関する 国際比較研究

ILC-Japan企画運営委員会
2012年6月12日

辻 彼南雄
(一般社団法人ライフケアシステム代表理事)

研究委員会

<主査>

長谷川和夫(聖マリアンナ医科大学名誉教授)

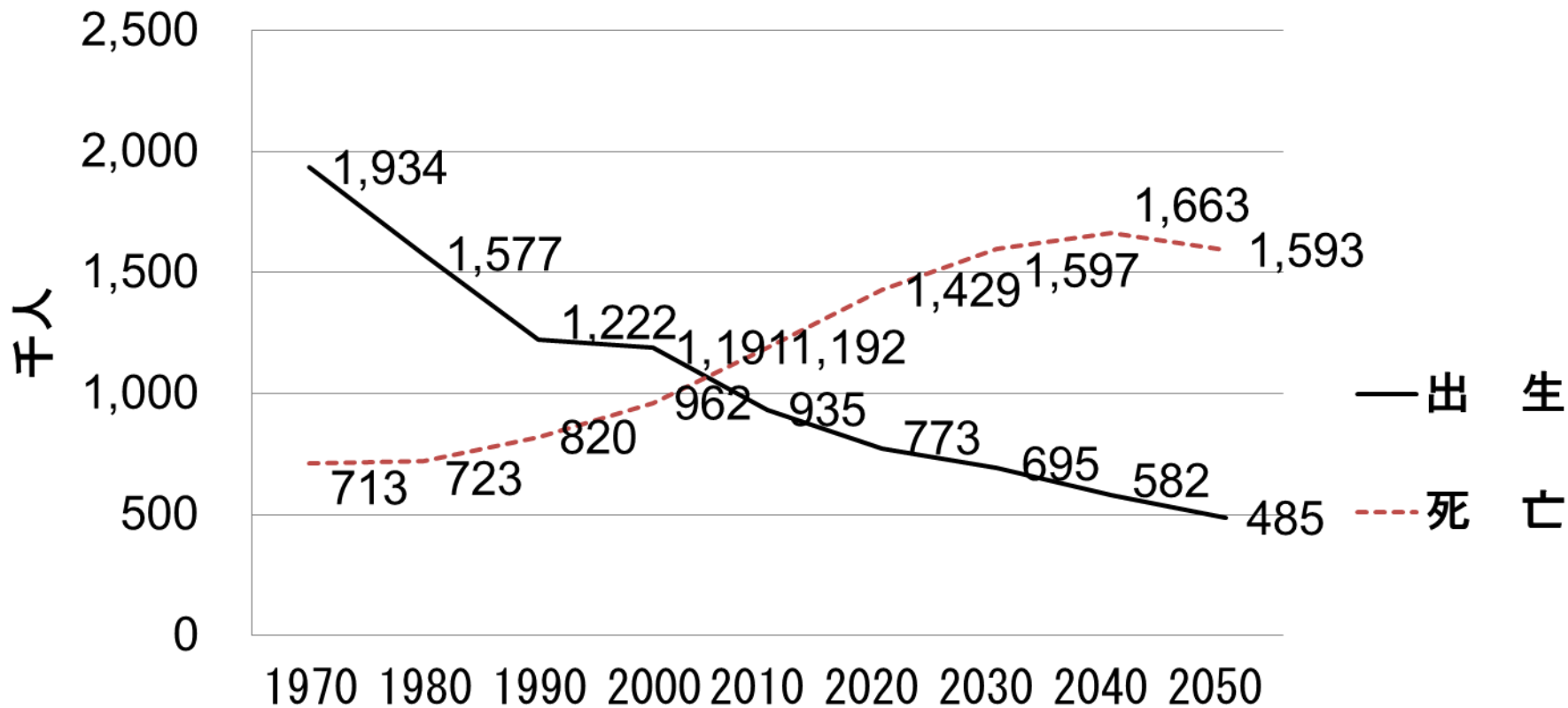
<研究委員>

磯部文雄(福祉未来研究所代表)、内出幸美(社会福祉法人典人会総所長)、木村利人(恵泉女学園大学学長)、辻彼南雄(ライフケアシステム代表理事)、鶴若麻理(聖路加看護大学准教授)、中島民恵子(医療経済研究機構主任研究員)、府川哲夫(前国立社会保障・人口問題研究所部長)、箕岡真子(東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野客員研究員)、渡邊大輔(成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員)

<海外調査協力>

ILC:アメリカ、フランス、英国、オランダ、イスラエル、チェコ共和国
韓国痴呆家族協会、HammondCare(オーストラリア)

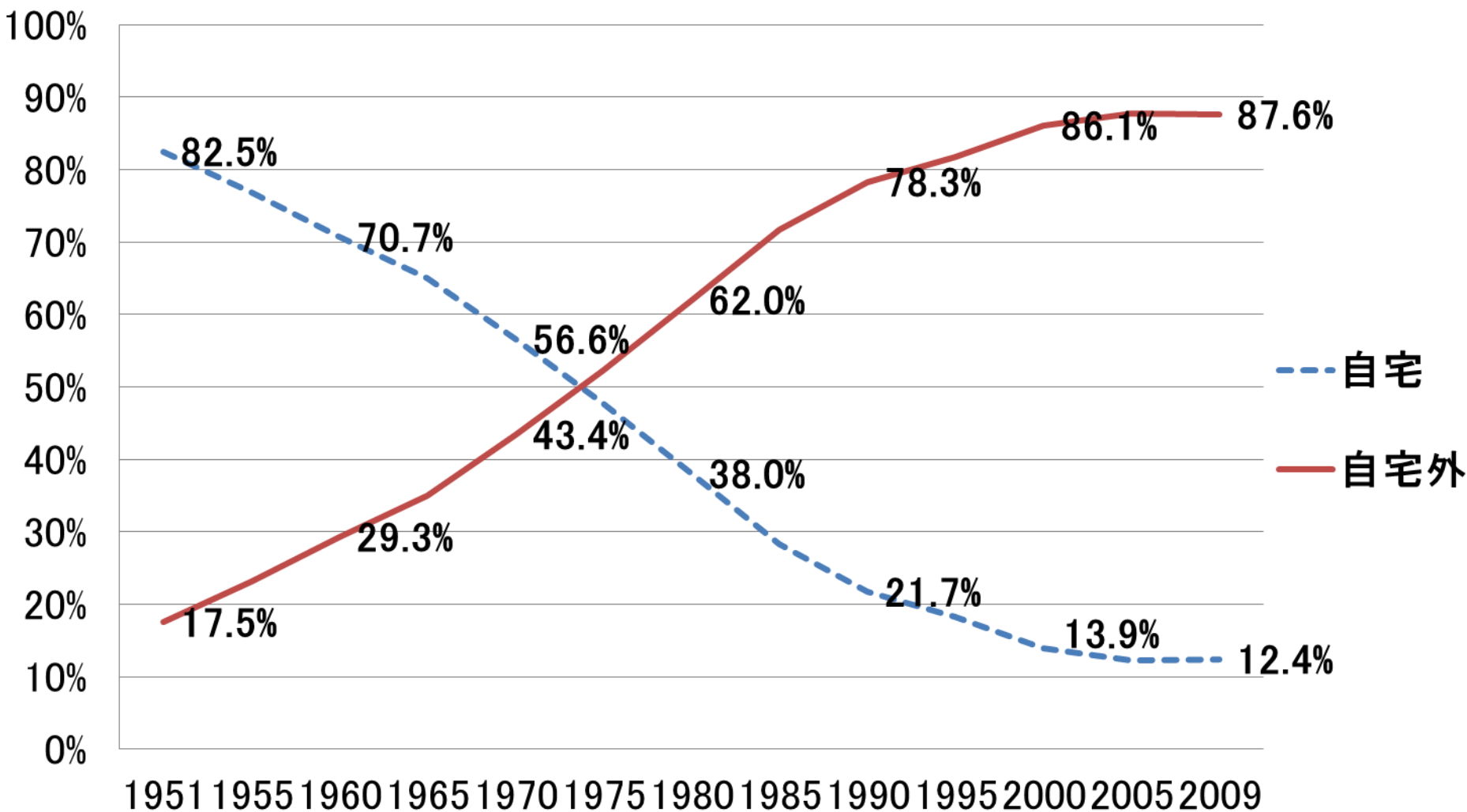
日本の出生数、死亡数



2000年まで：厚生労働省「人口動態統計」

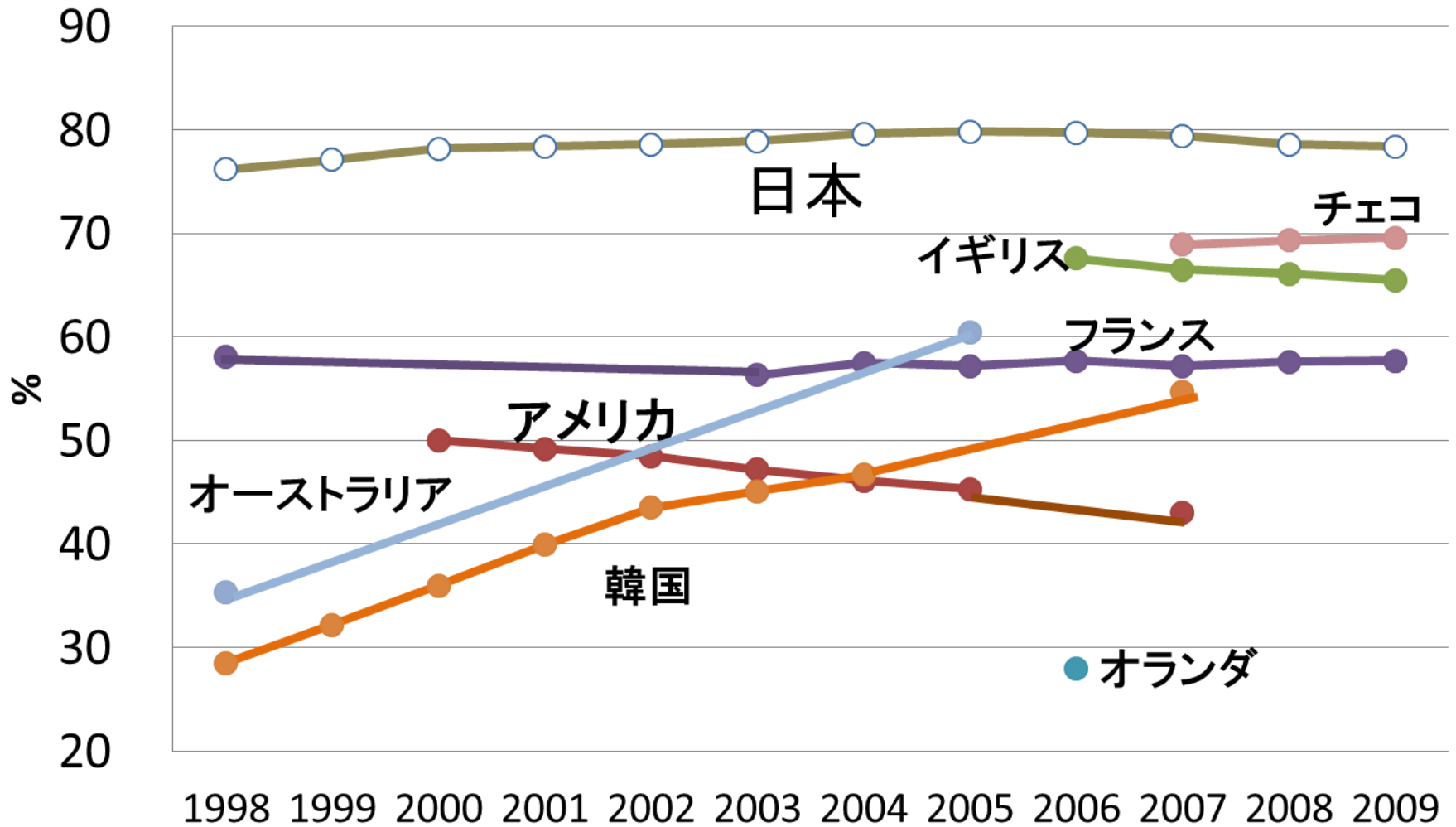
2010年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」

死亡場所の推移（日本）



厚生労働省「人口動態調査」2009

各国の病院死率の変化



何を知りたかったのか？

- 疑問1 なぜ病院死が増え、在宅死が減ったのか？
- 疑問2 死を迎える場所の違いは何から生まれるか？

どのような調査をしたか？

A. 終末期、看取りについての国際制度比較調査

(対象国：日本、アメリカ、フランス、イギリス、オランダ、イスラエル、チェコ、韓国、オーストラリア)

B. 専門職、機関への調査

a. 終末期の介護・医療と看取りに関する国際比較調査：アンケート調査 (日本、アメリカ、フランス、イギリス、オランダ、イスラエル、チェコ、韓国、オーストラリア)

b. 終末期の医療・介護と看取りに関する国際比較調査：施設質問紙調査 (日本、韓国)

c. 終末期の医療・介護と看取りに関する国際比較調査：ヒアリング調査 (日本、韓国、オーストラリア)

各国の法律、国家戦略、ガイドライン

日本(韓国、チェコ)は終末期関連の法律、国家戦略がない

| | 法律 | | 国家戦略 | 医師会等のガイドライン／指針 |
|---------|-------|-------|------|----------------|
| | 終末期関連 | 安楽死関連 | | |
| 日本 | | | | ○ |
| 韓国 | | | | ○ |
| チェコ | | | | ○ |
| イスラエル | ○ | | | |
| フランス | ○ | | ○ | ○ |
| イギリス | ○ | | ○ | ○ |
| アメリカ | ○ | ○ | | ○ |
| オーストラリア | | ○ | ○ | ○ |
| オランダ | | ○ | ○ | ○ |

理想の看取りと死に関する国際比較調査アンケート調査 国別 職種別 回答数

| | 医師 | 看護師 | 介護士 | ソーシャル ワーカー | その他 (PT,OT他), 不明 | 計 |
|---------|-----|-----|-----|---------------|------------------------|--------------------------|
| 日本 | 59 | 282 | 310 | 191 | 60 | 902(別に認知症ケア学会226) 総計1128 |
| アメリカ | 15 | 15 | 0 | 0 | 0 | 30 |
| フランス | 17 | 7 | 0 | 2 | 3 | 29 |
| イギリス | 23 | 15 | 16 | 15 | 0 | 69 |
| イスラエル | 25 | 17 | 0 | 15 | 6 | 63 |
| オーストラリア | 11 | 20 | 8 | 11 | 7 | 57 |
| オランダ | 15 | 14 | 0 | 4 | 0 | 33 |
| 韓国 | 22 | 277 | 353 | 98 | 128 | 878 |
| チェコ | 16 | 17 | 4 | 12 | 7 | 56 |
| 計 | 203 | 664 | 691 | 348 | 211 | 2117(総計2343) |

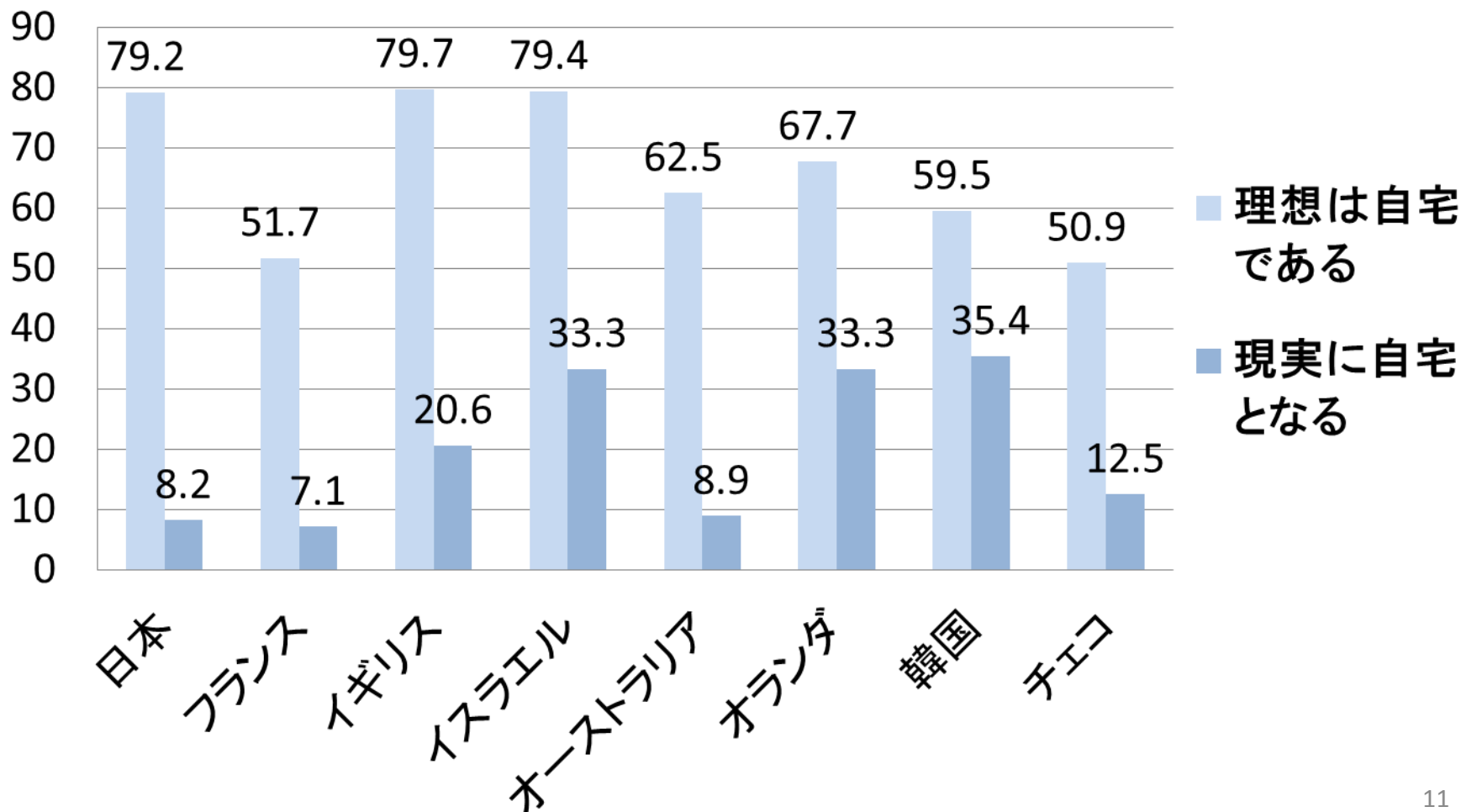
二つの仮想ケースについての質問

- がんケース
 - 末期がんの女性、85歳。余命1ヶ月
 - 一人暮らし、息子夫婦が15分ほどの場所に居住
 - 在宅での治療継続を希望
- 認知症ケース
 - 重度認知症の男性、80歳
 - 誤嚥性肺炎を繰り返し、経口摂取が困難
 - 夫婦2人暮らし
 - 妻は在宅介護を希望も、妻の介護力は低い

看取りの場所＝「自宅」の理想と現実

理想と現実のギャップは日本が最も大きい

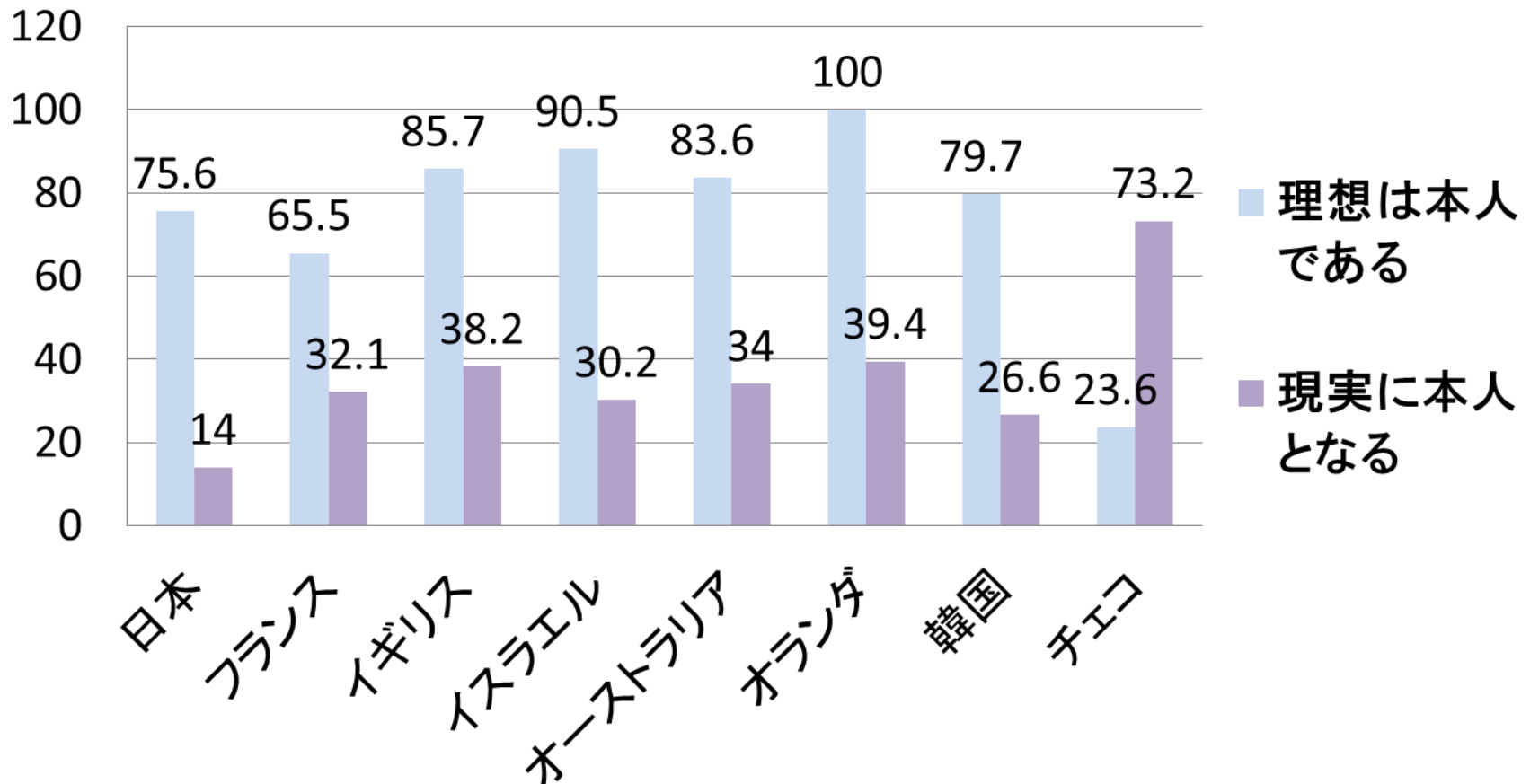
自宅で終末期を迎えること(がんケース)「理想」と「現実」(%)



看取りの主導者＝「本人」の理想と現実

理想と現実のギャップは日本が最も大きい

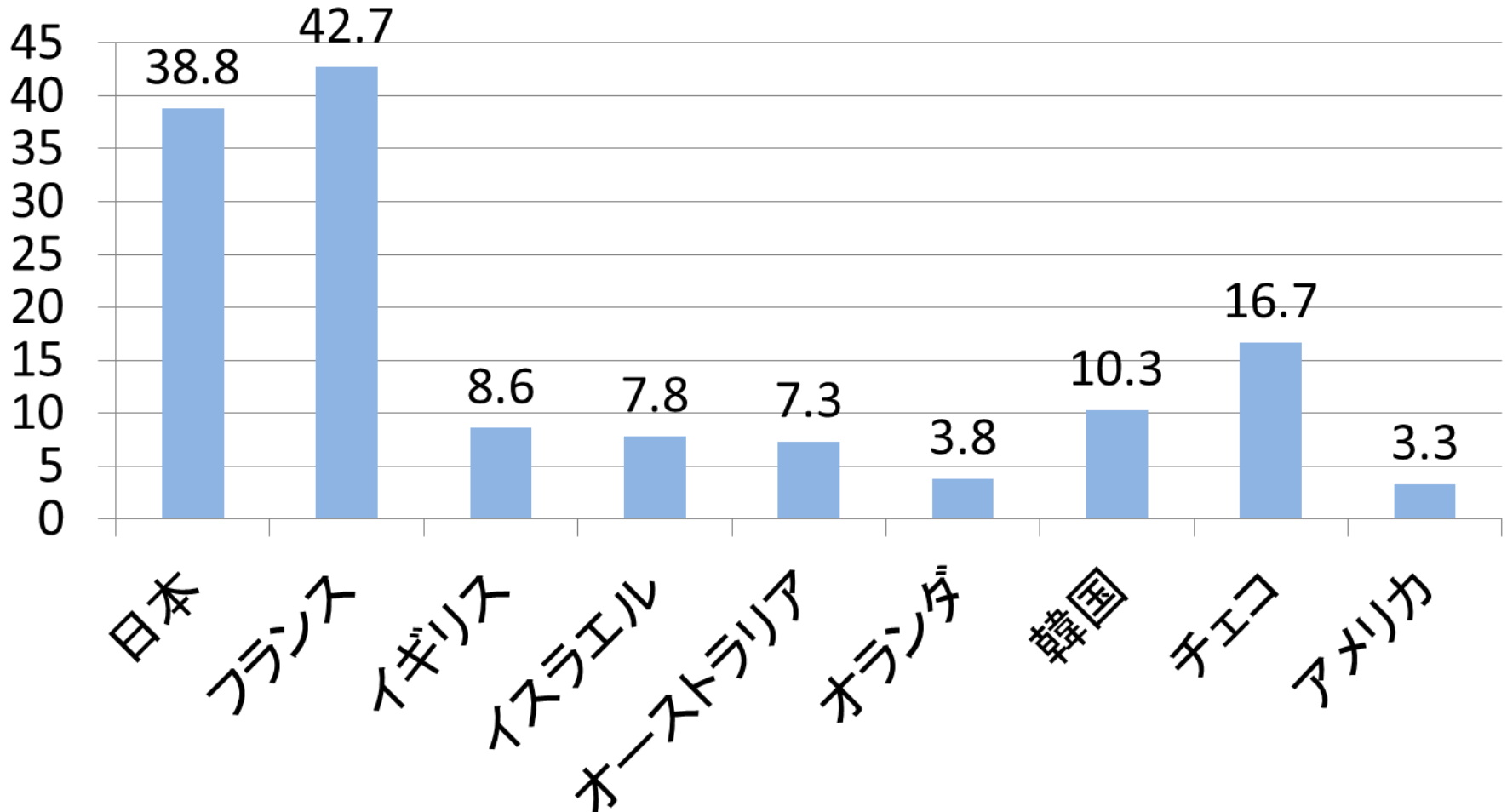
本人が方針の主導権を取る(がんケース)「理想」と「現実」



看取りの方針選択の理由

生存時間

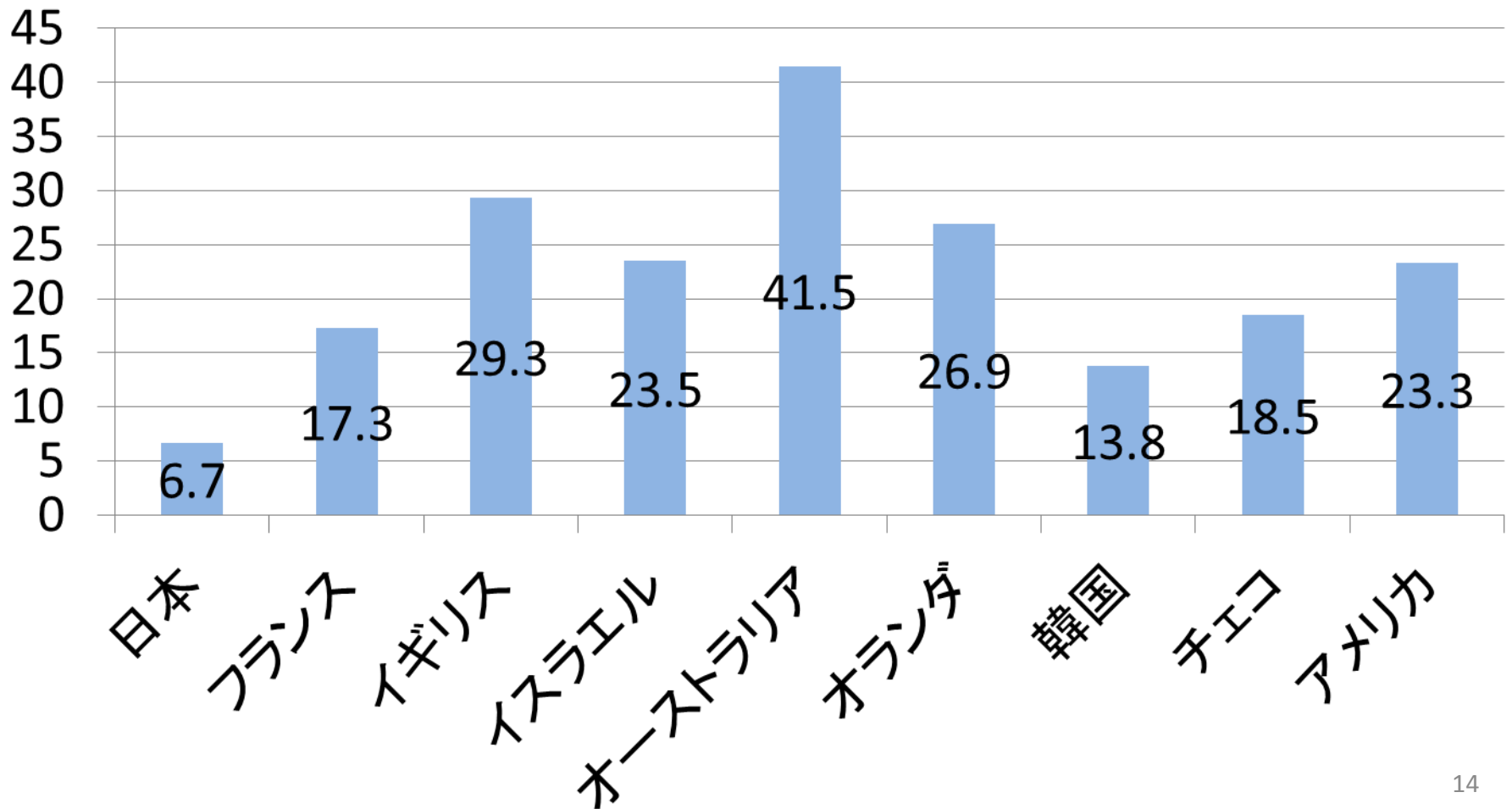
看取りの方針を選択する場合の理由(現実 認知症ケース %)



看取りの方針選択の理由

QOL

看取りの方針を選択する場合の理由(現実 認知症ケース %)

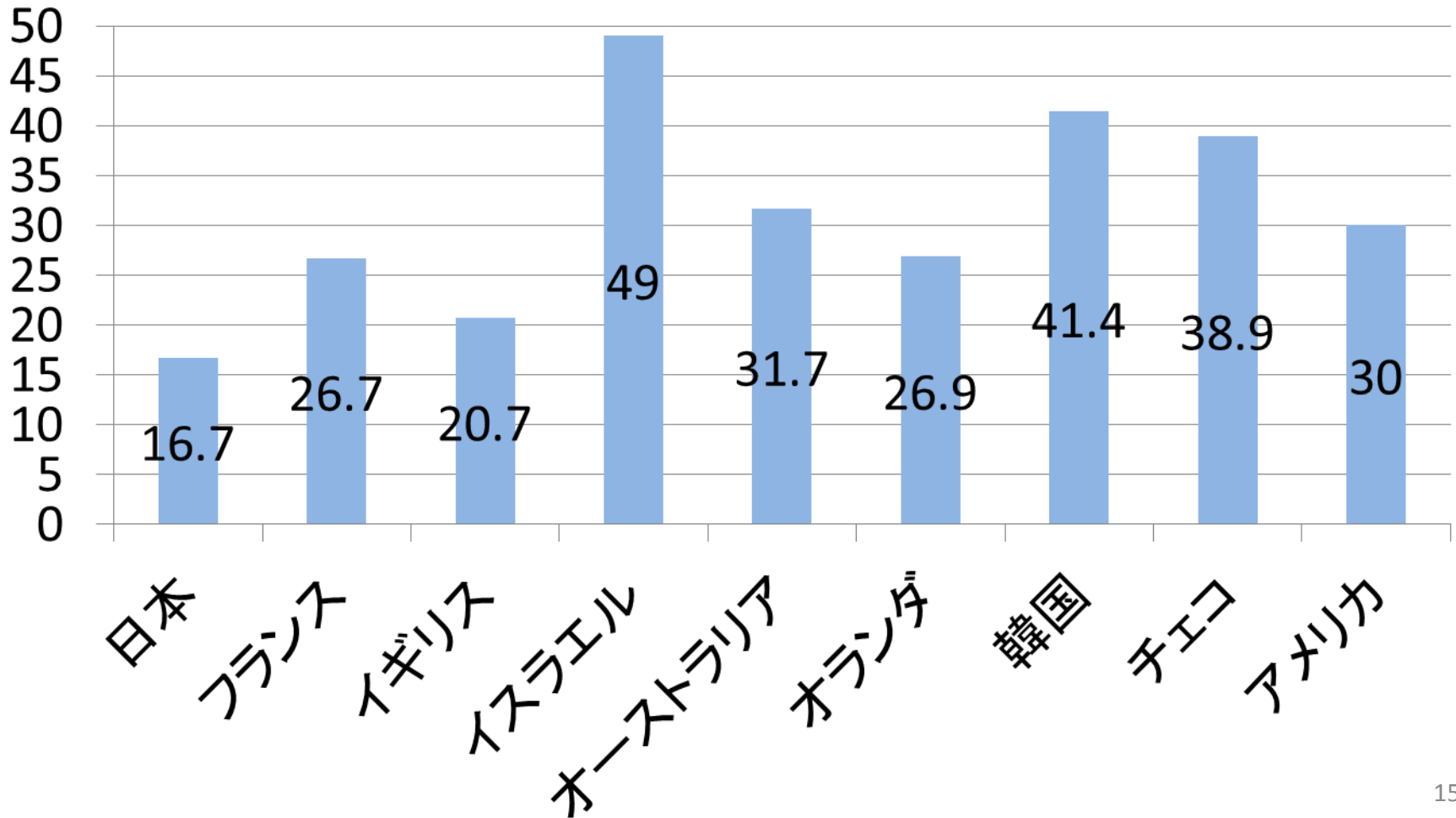


看取りの方針選択の理由

尊厳保持

看取りの方針を選択する場合の理由

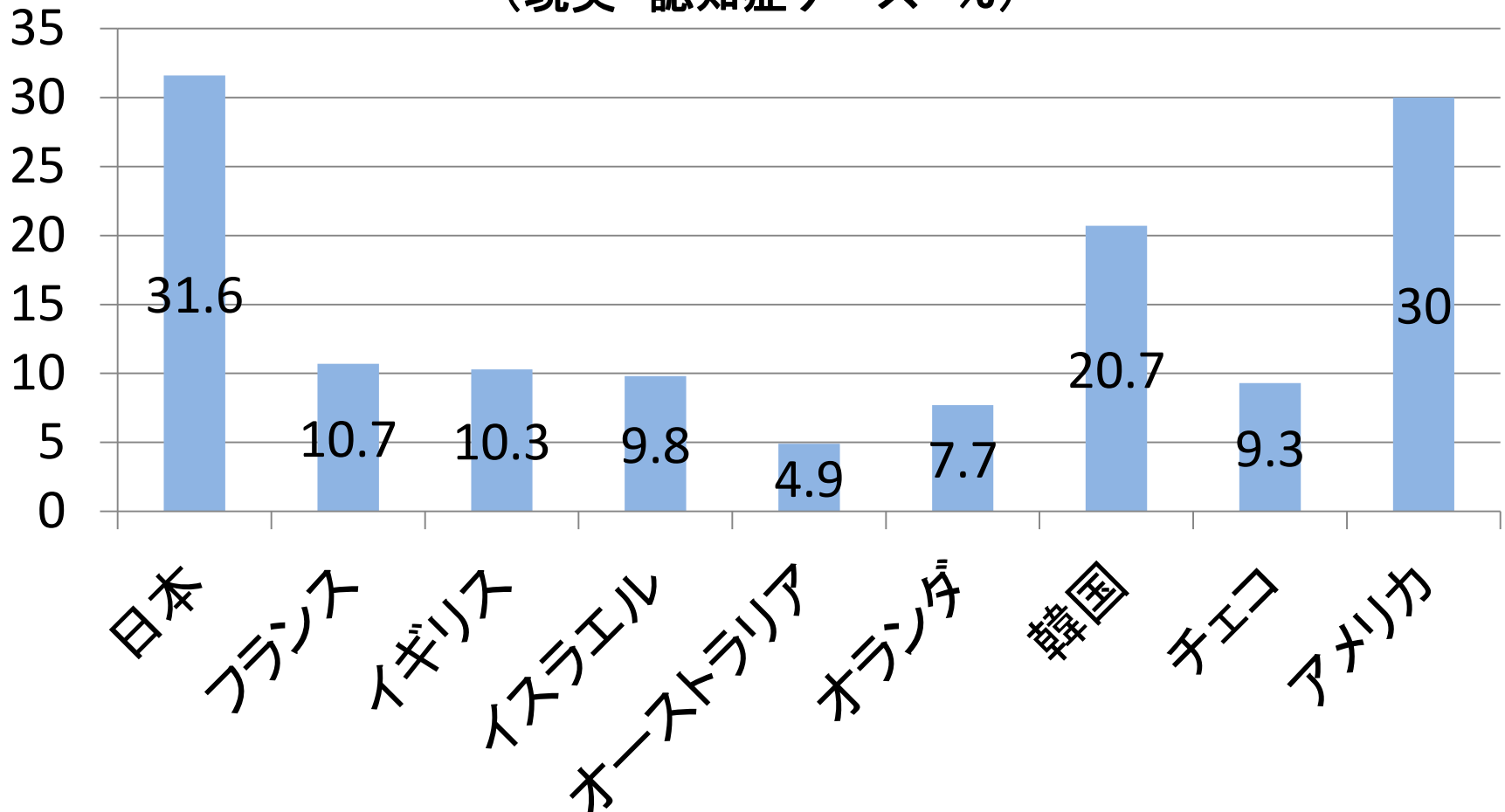
(現実 認知症ケース %)



看取りの方針選択の理由

家族の意向

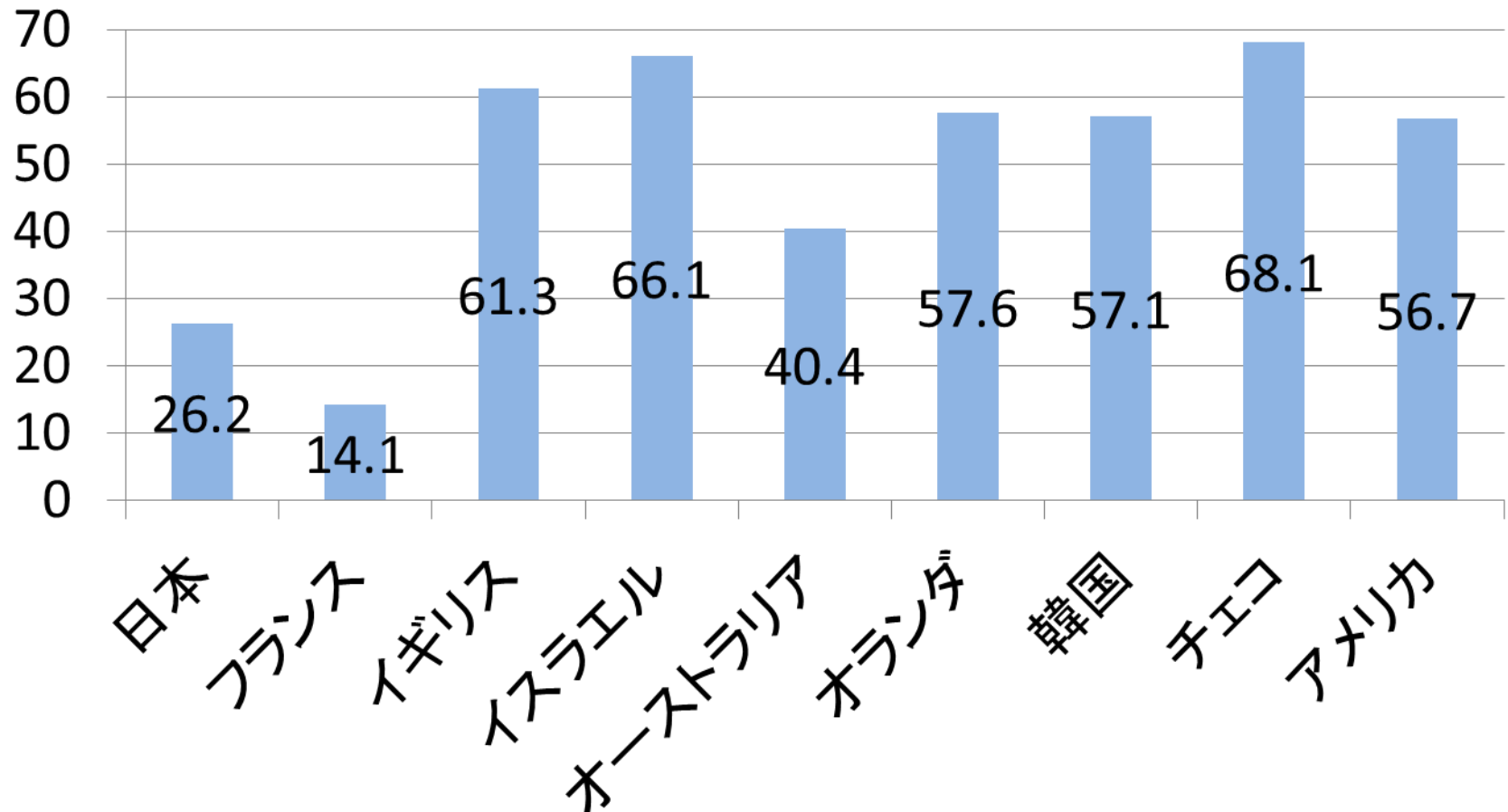
看取りの方針を選択する場合の理由
(現実 認知症ケース %)



医学的知見以外の家族への説明

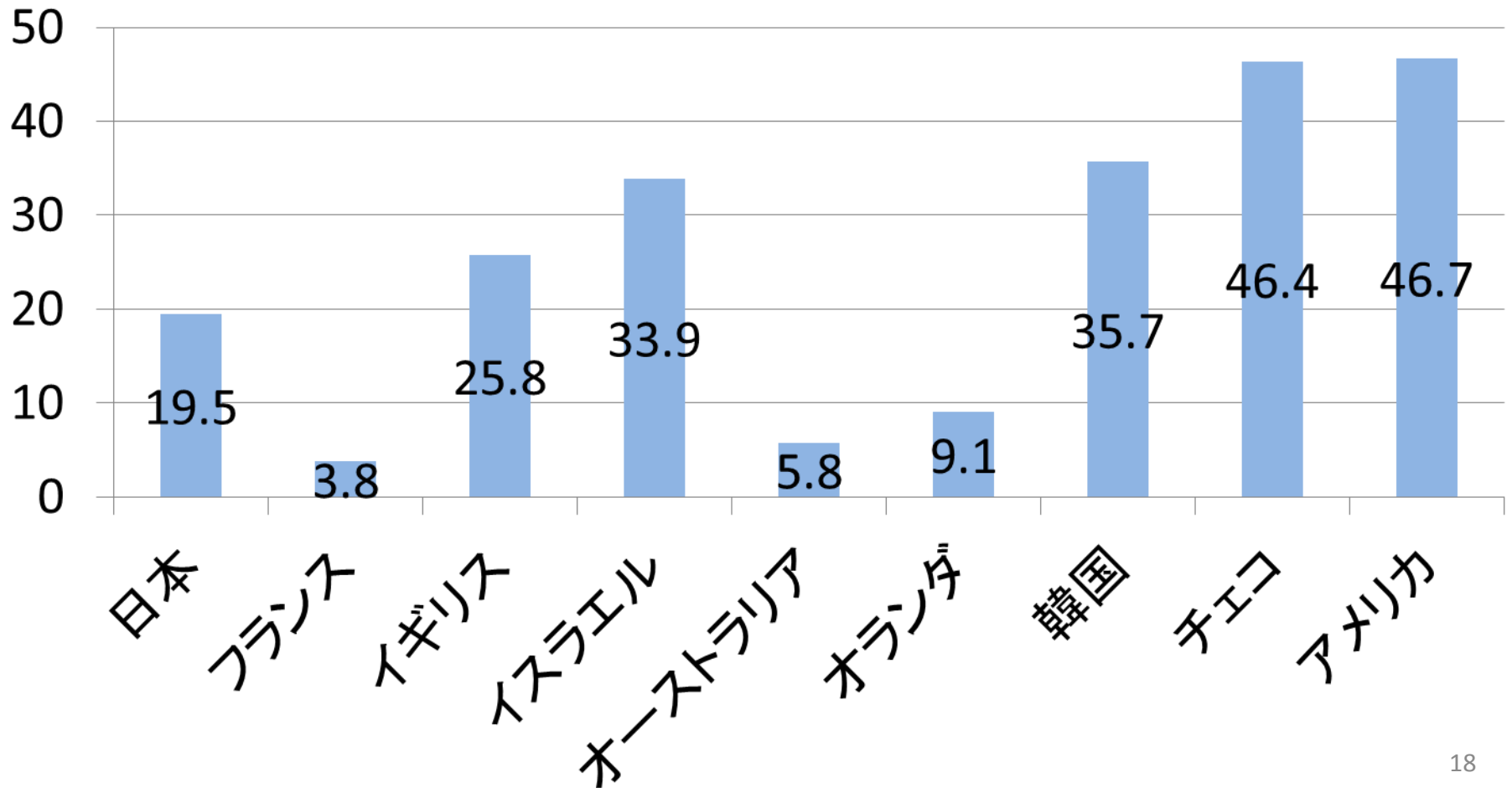
余命

医学的知見以外のへの家族への説明内容
(認知症ケース % 複数回答可)



医学的知見以外の家族への説明 事前指示書

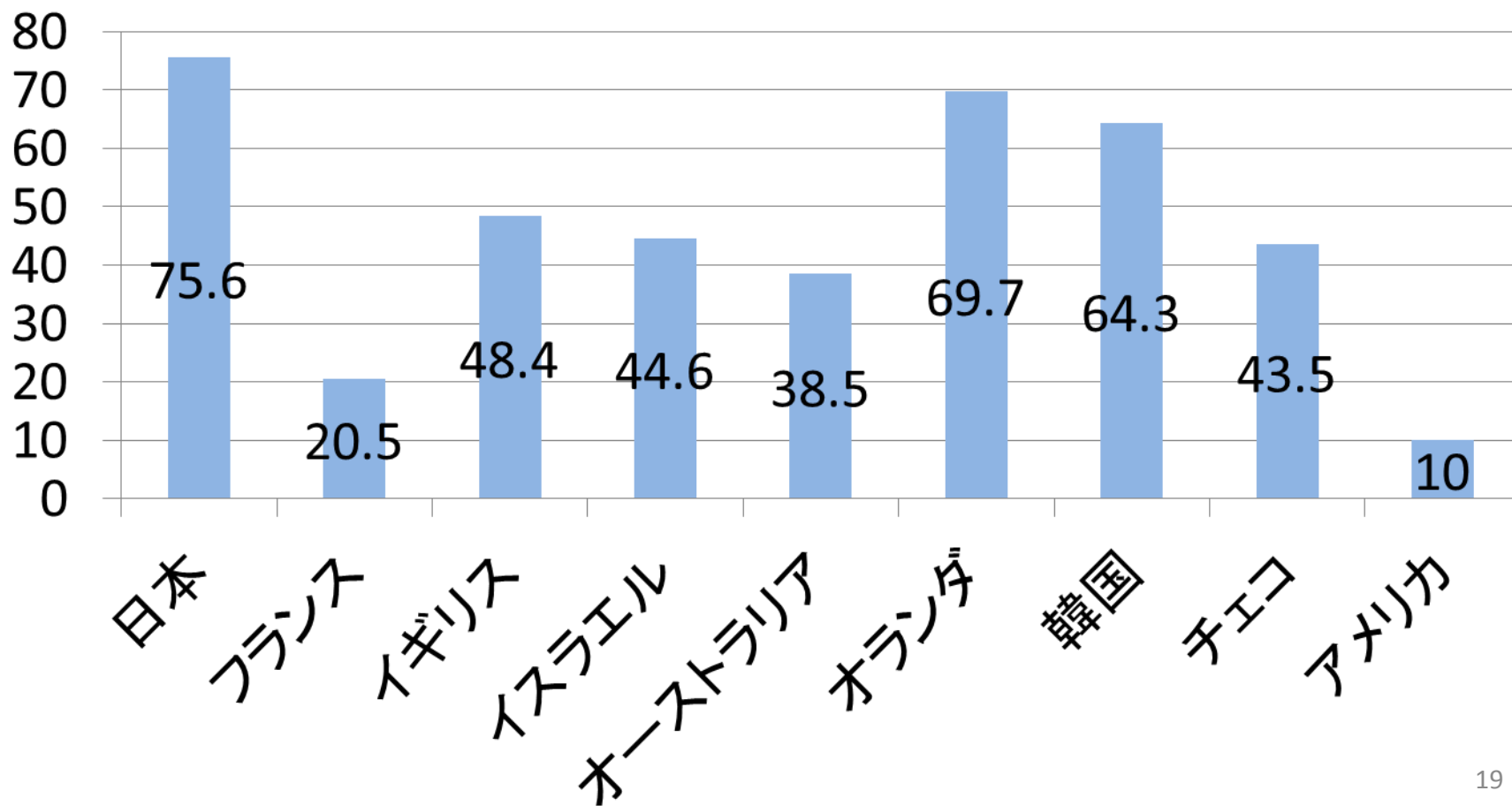
医学的知見以外のへの家族への説明内容
(認知症ケース % 複数回答可)



医学的知見以外の家族への説明

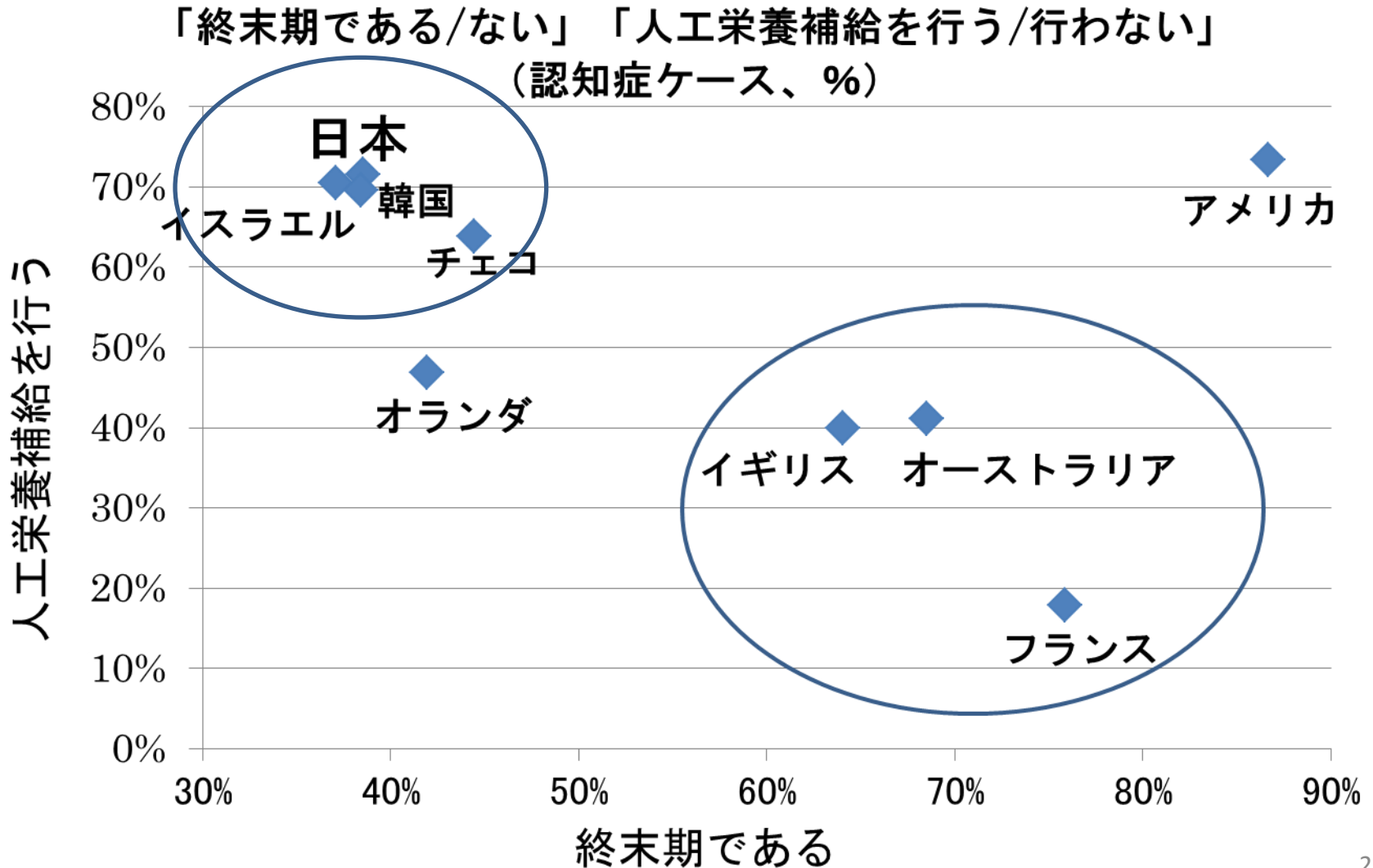
家族の介護負担

医学的知見以外のへの家族への説明内容(認知症ケース % 複数回答可)問3-6



「終末期である/ない」と「人工栄養補給を行う/行わない」

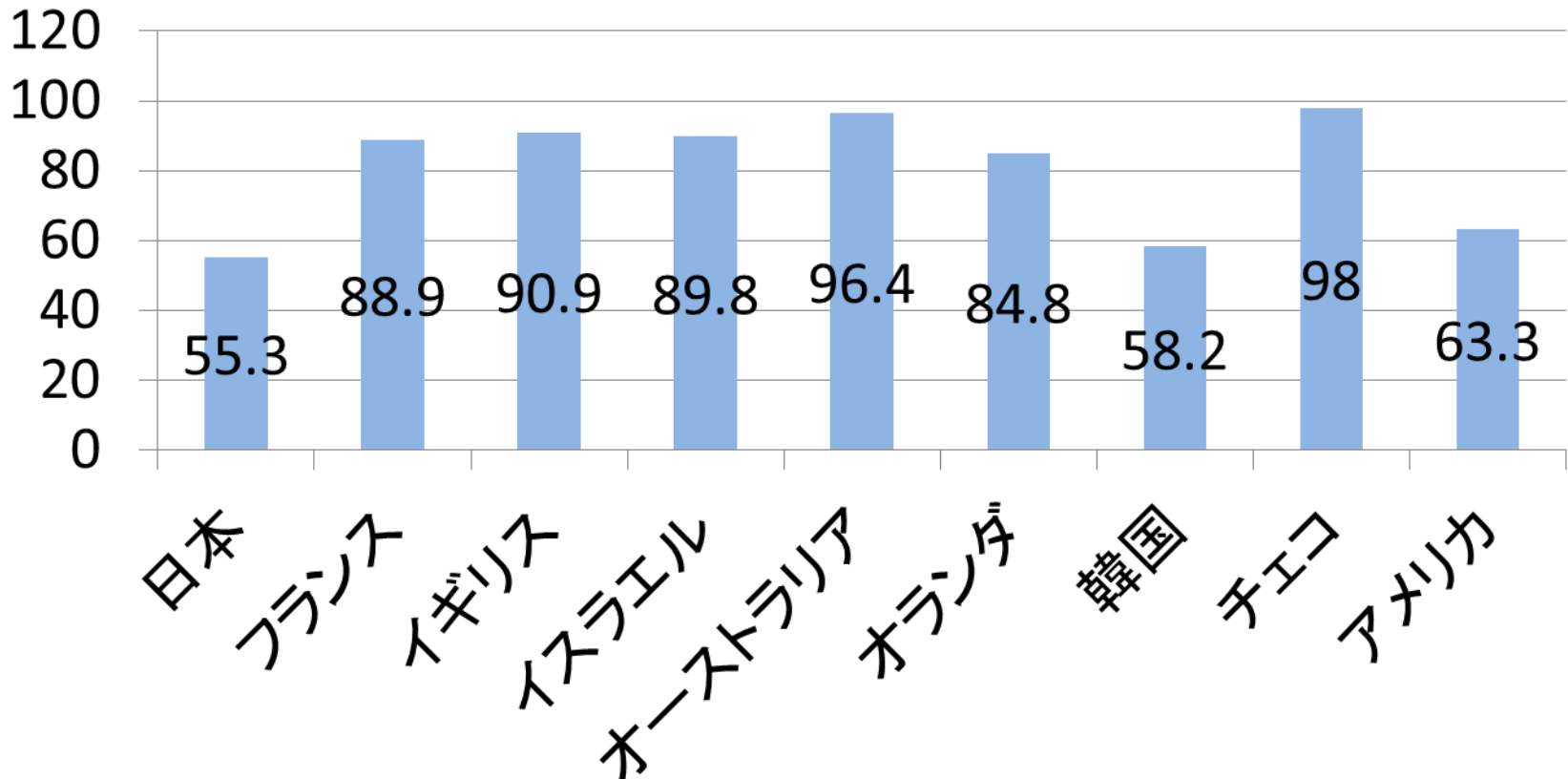
日本は終末期と判断する割合が低く人工栄養補給を行う割合が高い国のグループに入る



近親者の理想の看取り

事前に本人と治療等の希望について
話し合った上での看取り

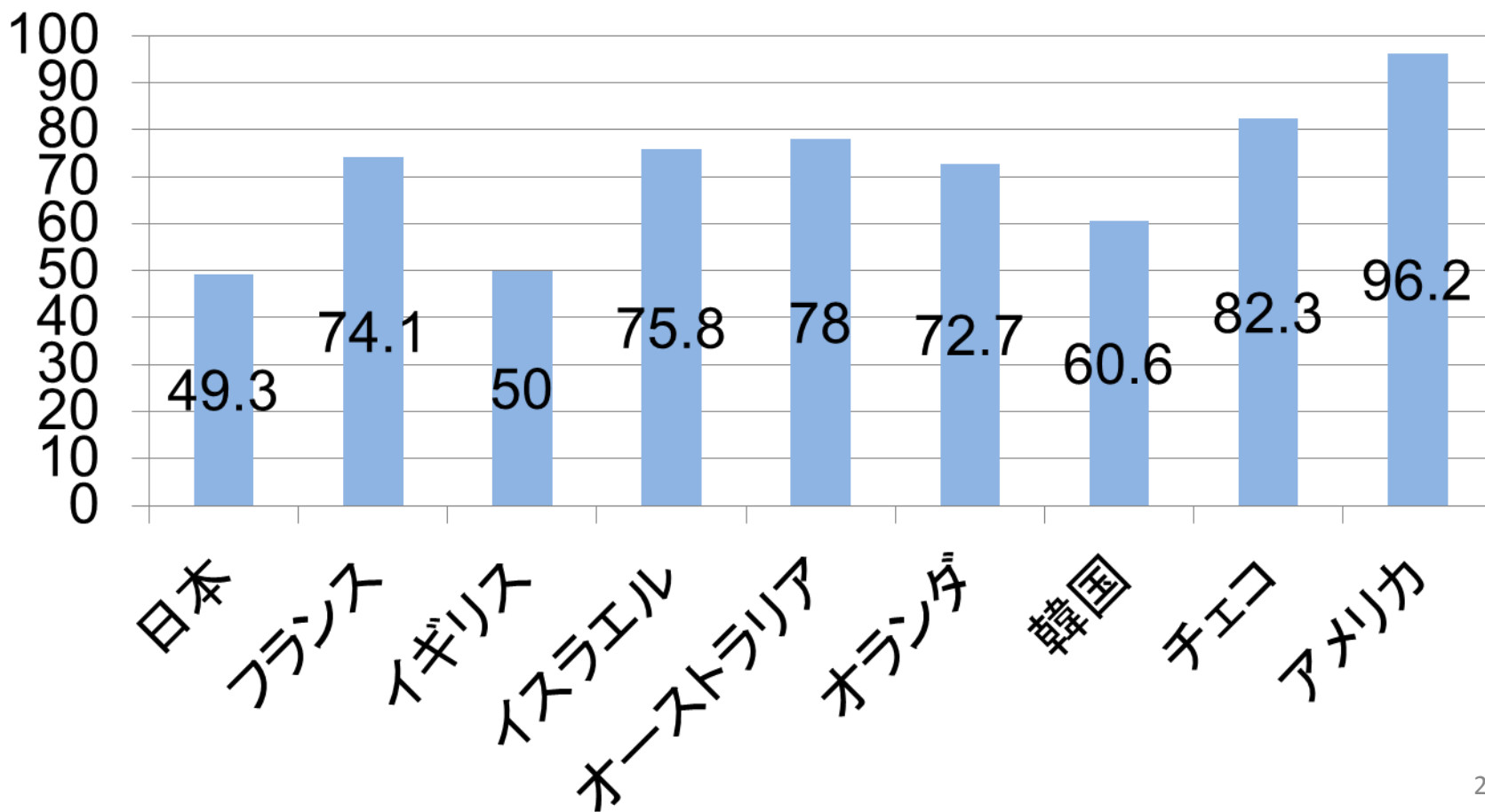
「そう思う」「ややそう思う」の計、%



近親者の理想の看取り

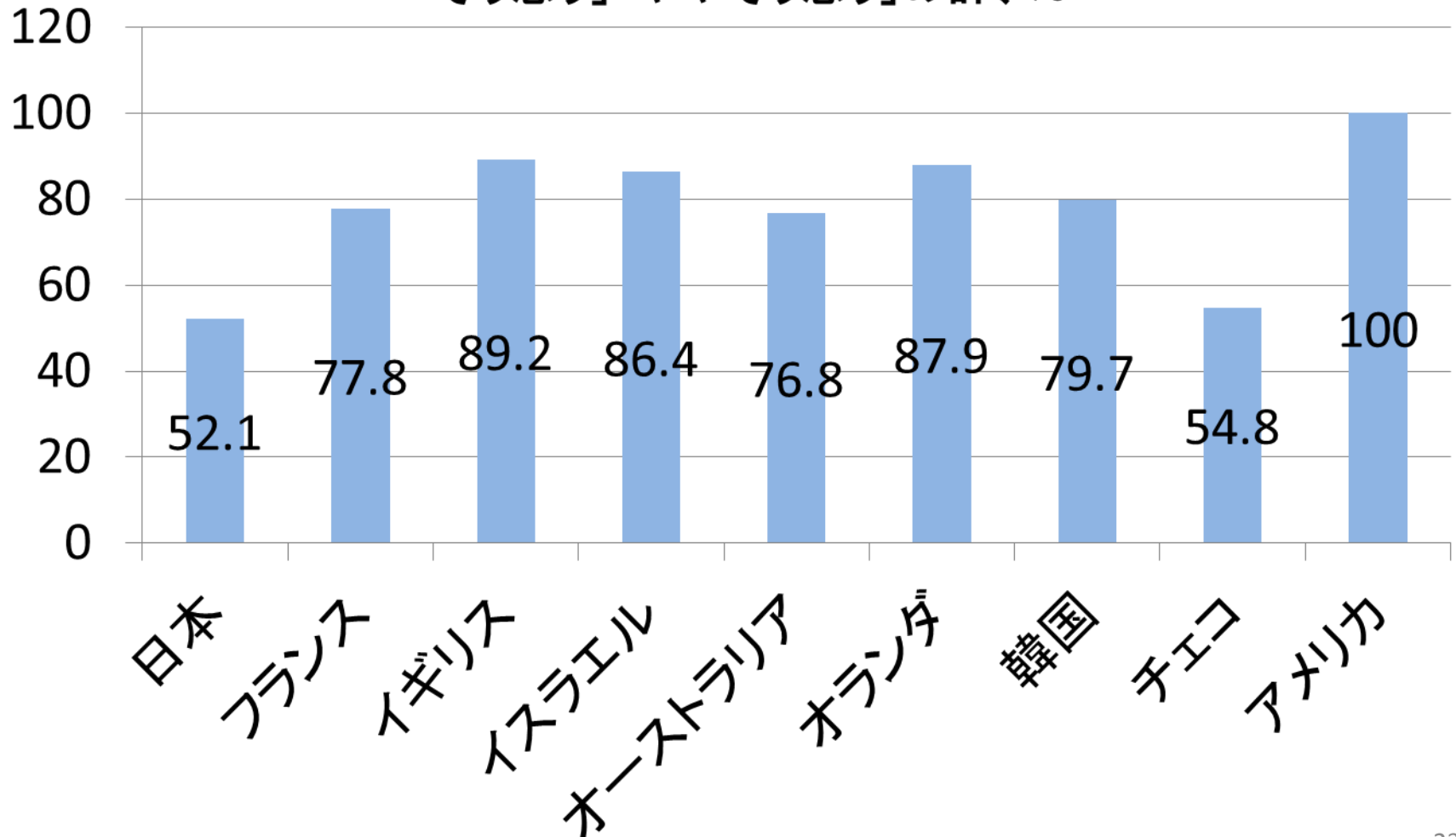
可能な限りの医療や介護受ける環境を整えての看取り

「そう思う」「ややそう思う」の計、%



近親者の理想の看取り 本人の自宅での看取り

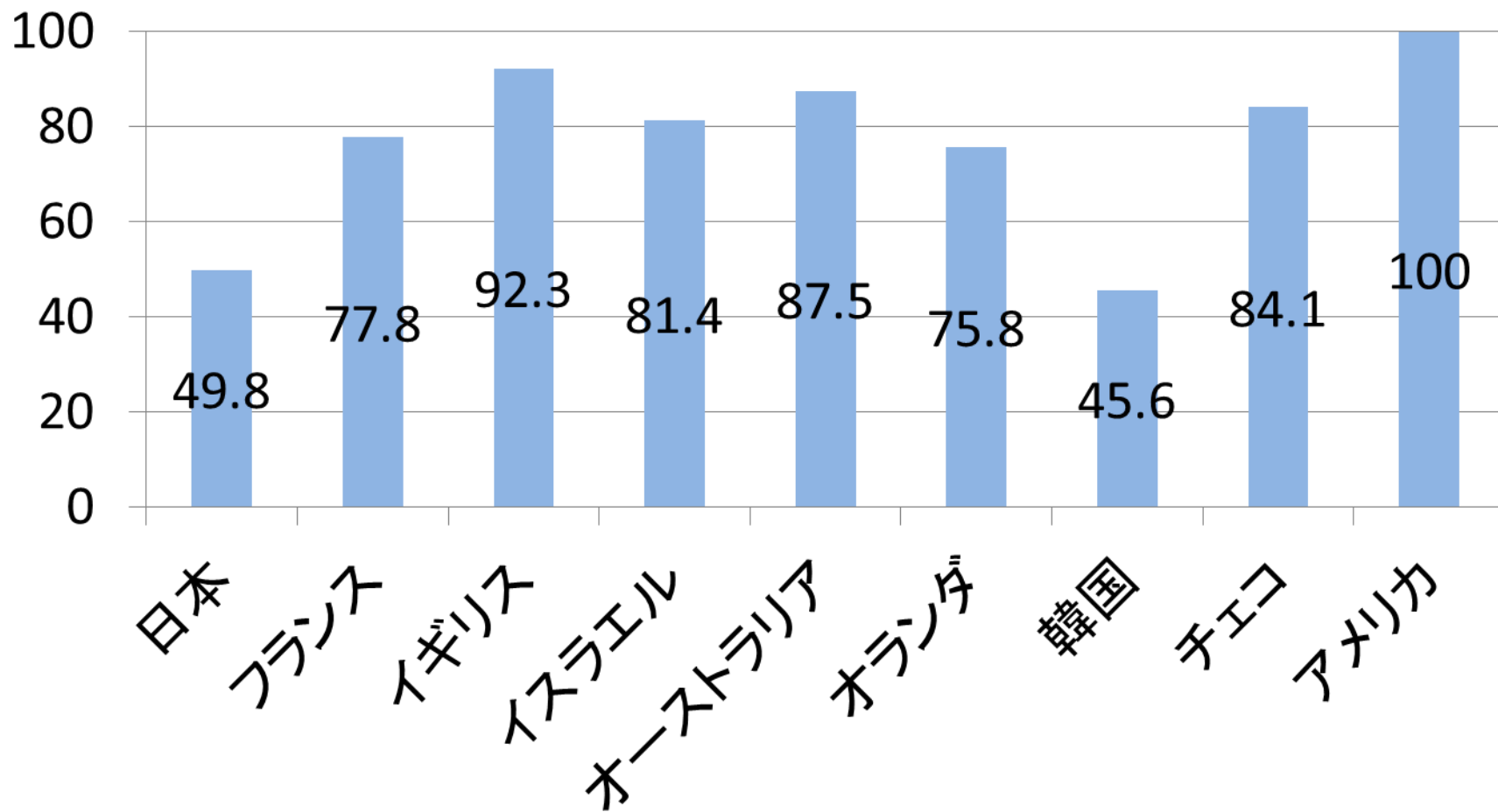
「そう思う」「ややそう思う」の計、%



近親者の理想の看取り

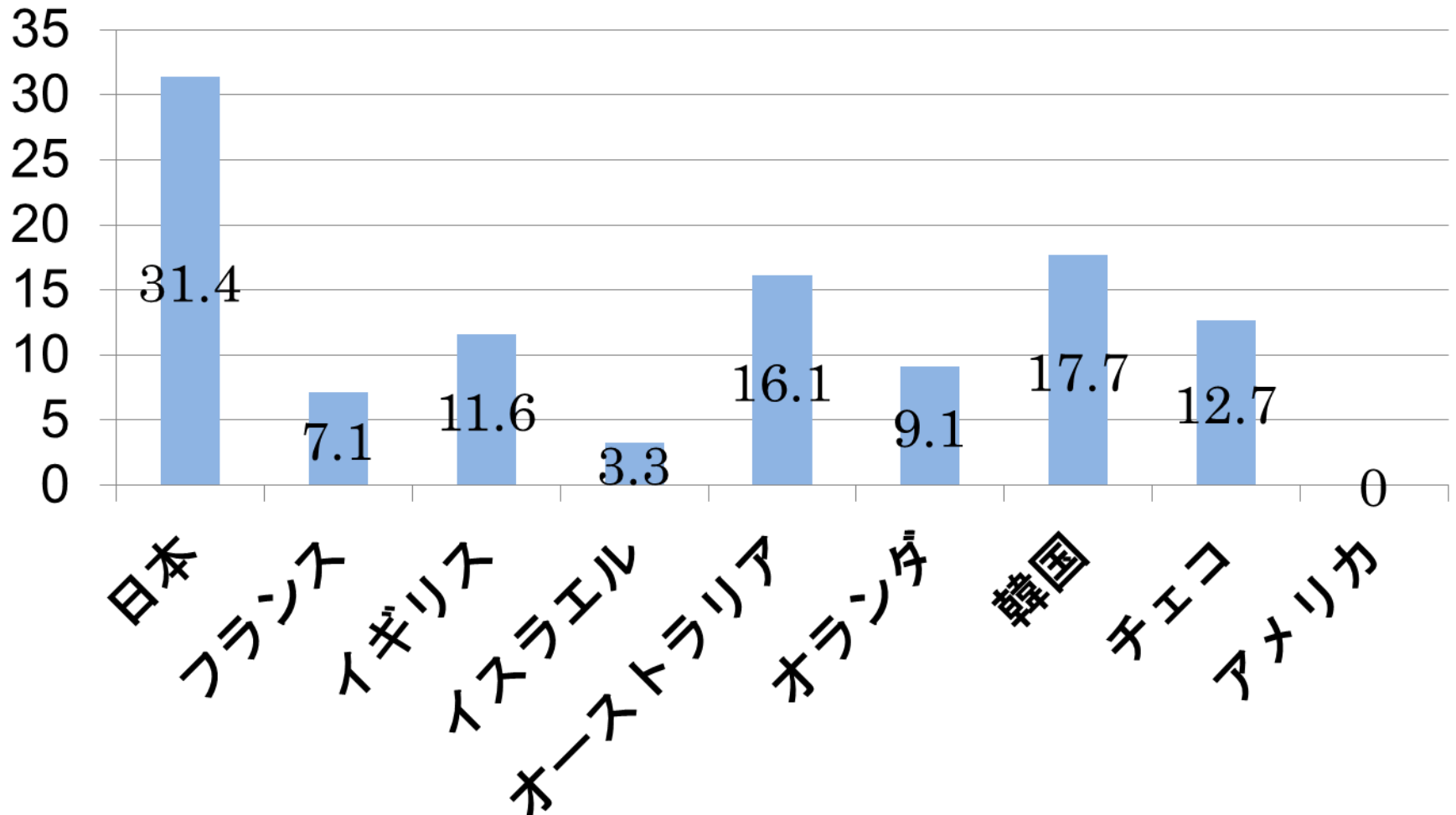
本人のために時間やお金をかけての看取り

「そう思う」「ややそう思う」の計、%



死についてよく考えるか？

死についてよく考える(%)



各国の特徴は？

- 各国とも、自宅で本人の意思に基づく看取りが理想だがギャップはある
- 日本、韓国、チェコ(3国には看取りの法律等がない)、イスラエルは終末期と認める時期が遅く、人工栄養を使用する傾向。
- イギリス、フランス、オーストラリアは早くから終末期と認め、人工栄養も使用しない傾向

日本の特徴は？(1)

⇒ 理想と現実のギャップが大きい： 看取りについての国民的コンセンサスの不足

⇒ 方針決定の際に、「QOL」「尊厳」はあまり重視せず、「生存時間」「家族の意向」重視の傾向

⇒ 家族への説明では、「余命」「事前指示書」はあまり説明がない。「家族の負担」は説明

⇒ 理想の看取りでは、「本人との話し合い」「可能な限りの医療や介護」「自宅での看取り」「時間やお金をかける」はいずれも少ない

⇒ 死についてはよく考える

日本の特徴は？(2)

⇒ 看取りに関する法律、戦略、ガイドラインが未整備

⇒ 家族に判断を任せる傾向

⇒ 本人・家族・関係者が、死を前提としてよく話し合っ
て判断を行い、本人の尊厳とQOLを重視することを避ける
傾向

★「尊厳」「QOL」と「家族の意向」を両立させていく必要

★死を見つめ、終末期について国民的な議論が必要

「これから」への提言

- 1) 認知症の終末期のケアのあり方
についての国民的議論
- 2) 国レベルでの法整備
- 3) 看取りにかかわる在宅ケア専門職の
教育推進

調査・研究成果の発表(国内、海外)

研究発表

○日本老年学会総会
2011年6月15日(東京)

○認知症ケア学会
2011年9月24日、25日(横浜)

○Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology in Melbourne, Australia, Oct. 23-27, 2011

○認知症ケア学会
2012年5月19日、20日(浜松市)

○日本老年社会科学学会大会
2012年6月9日、10日(佐久市)

○The 28th Alzheimer's Disease International Conference
April 17-20, 2013, Taipei, Taiwan

○The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics
June 23-27, 2013, Seoul, Korea

報告・普及・啓発

○研究報告書
2010年、2011年、2012年 各3月刊行

○報告要約版(日本語、英語)
ホームページ掲載 2012年6月刊

○「長寿社会グローバル・インフォメーションジャーナル」End-of-Life特集
17, 18, 19号 2011年秋～2012年夏

○一般向け啓発パンフレット
2012年夏

他に、ILCアライアンス年次総会(2011年9月オランダ、2012年5月チェコ)でも成果を発表